

「まちづくりへの住民参加」の

アンケート結果について

No.1

2019年（令和元年）12月から2020年（令和2年）1月にかけて、町と北海道大学農学部との共催で「まちづくりへの住民参加」をテーマにアンケート調査を実施しました。集計を担当していただいた北海道大学のりしゅ様より、アンケート結果から見てきた浦幌町の特性や改善が必要な課題などについて本紙面を通じて報告していただきます。

まちづくり政策課

北大農場



こんにちは。広報URAHOROで何号かお邪魔させていただくことになりました。北海道大学国際食資源院の修士1年、りしゅと申します。今号から続くこのパートでは、私が卒論の1環として浦幌町で実施しました、「まちづくりへの住民参加」のアンケート結果について報告をしていきます。

自己紹介

なんでいきなり、りしゅとかいう人がそんなわけのわからない話を広報誌でしているのかを説明するために、少し長めの自己紹介をさせていただきます。りしゅという名前からすでに気づいているかもしれませんが、わたしは外国人です。「李澗」と言います。12歳まで中国で育った私は、親の仕事で中学1年生の時に日本に来て、高校まで東京で過ごしました。東京は、それまで住んでいたところと180度違う世界でした。



北大の牛舎

大学で北海道に来て、北海道大学農学部農業経済学科に所属して、いろんな地域に行くようになってから、私は自分のふるさとを良く思い出すようになりました。日本に来た年に中学校が閉校になったとふるさと。小さい子がいる家庭はみんな都会へと出て行ったとふるさと。ほとんどの畑や田んぼが外部の農業会社に貸し出されて、農業と農村が引き離されるようになったとふるさと。

農学部に入った当初は、ただ「おいしい」が好きで、「食へること」について勉強したいと思っていました。気付けば「食へること」から「食へるを支える農業」「農業生産を支える農村」へと関心が広がって行きました。そのあとからずっと「地域づくり」をキーワードに、北海道の農業農村について勉強して来ました。

研究室の調査では、「農村の豊かさ」をテーマに北見地域で農家への聞き取り、「地域のこれから」について根室市厚床地域で住民への聞き取りやワークショップ、「住み続けるためのまちづくり」をテーマに興部町で住民ワークショップなどに参加させていただきました。また、地域への関心から、研究室の調査に留まらず、栗山町、石狩

市と十勝農協連には農家バイトや農協インターンを通してお世話になりました。美瑛町、喜茂別町には教育ボランティアで行かせていただきました。



農場の案内

北海道の色々な地域にお世話になりましたが、浦幌町ではほんとにいくつもの大事な「はじめて」を経験しました。

はじめてのフィールドワークは、浦幌でした

札幌市から車で3時間半、浦幌町についてすぐ常室フオを見学し、cafeで浦幌産豆たつぷりのカレーランチをいただきました。ノースプロダクションの近江正隆さんとうらぼろスタイルサポーターの門馬孝敬さんからうらぼろスタイルの話を書いては感謝し、地域おこし協力隊の方たちとも交流しました。夜は宝町会



常室ランチ

館で寝袋にこもりながら、みんなですごいすごいと感想を言い合って、夜中の1時過ぎまでまとめを作っていました。

はじめて地域での活動に参加したのも、浦幌でした

とにかくもつとフィールドワークに行きたい、と強く思うきっかけになったその調査の最後に、うらぼろスタイルサポーターの本間悠資さんから「しゃっこいフェス」のことを聞きました。釧路教育大が毎年出店していることを聞き、謎のライバル心を燃やした。その場で出店を決めました。しゃっこいフェスを温かいもので制す！と意気込み、道産原材料にこだわった北大農学部おしるこを出しました。



しゃっこいフェスおしるこ

はじめて地域の方とつながったのも、浦幌でした

しゃっこいフェスにて、あるお客さ

んから、「なんで北大生が浦幌に来ているの？」と聞かれ、得意げにうらぼろスタイルの宣伝をしました。あるお客さんとは、「浦幌は色んな人を取りこにさせる、ほんとにいいところだよ」と長い立ち話をした。あるお客さんには「浦幌に来ているなら浦幌産を使わない」とうれしい指摘をされました。そのお客さんが農業者の元木一彦さんでした。翌年しゃっこいへの出店を決めたときは真つ先に元木さんに連絡しました。元木さんのじゃがいもとかぼちゃに加え、厚内のたごっこつぷ、浦幌乳業のロングライフ牛乳を使ったうらぼろシチューの誕生でした。



しゃっこいフェス浦幌シチュー

浦幌町をはじめ複数の地域で、地域の方たちが、ただの学生にも関わらず、ほんとに惜しみもなく地域のことや自分たちの考えについて話してくれました。その度にわたしは、受け取ったも

のを一所懸命分析し、研究につなげたい、研究を通して、地域の方に何か恩返しができるかと思うようになりました。卒論を書くときは、自然の流れで地域で調査をやりたいと思いました。まちづくり政策課にご理解ご協力をいただき、2019年12月〜2020年1月の間、「まちづくりへの住民参加」に関するアンケートを町内300人の方に送付し、80名の方に回答していただきました。一つ一つ、ほんとに貴重なご意見を書いてくださいました。出来上がった論文をまちづくり政策課の方に伝えることはできましたが、アンケートを実施した者として、なによりも回答していただいたみなさんに伝える義務があると感じました。実際にアンケートの中からも、行政の取り組みに対して「やっていることをもっと見せてほしい」との回答がたくさんありました。

そこで、まちづくり政策課の皆さんの協力を得て、今回このように、広報誌を通して浦幌町の皆さんと会話する場を作っていただきました。来月からは、アンケート結果の紹介とともに、北海道で「地域づくり」について勉強している大学生の「コラム的なもの」を書いていけたらなと思っています。

アンケートの実施を知らなかった方もたくさんいると思いますが、「こんなこともやってたんだ〜」と思って読んでいただければ幸いです。皆さんからのコメントや質問も、受け付けたいと思いますので、ぜひぜひ、引き続きどうぞよろしくお願いたします。